

分類 番号	A2	取組 名称	丹後宮津を中心とした歴史文化遺産のデジタル計測とその活用
研究代表者：	文学部	職・氏名：	教授・菱田 哲郎
研究担当者：	京都府立大学（菱田哲郎、向井佑介、上杉和央、東昇、福井亘） 外部分担者・協力者（宮津市教育委員会・河森一浩氏ほか）		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）	京都府宮津市教育委員会		
【研究活動の要約】			
<p>宮津市成相寺には、鎌倉時代の石造地蔵、室町時代から江戸時代の板碑など、豊富な石造物が知られている。また、本堂に向かう参道の石垣は、勾配もゆるく古い形状をとどめている。これらについて、デジタル技術を応用しながら、現状の記録化をおこなった。石垣や大型の板碑については、写真測量を実施し、その平面形や立面形についての図化をおこなった。あわせて他の石造物について実測調査を実施し、銘文についても検討し、成相寺の変遷のなかに中世の石造物を位置づけた。そして、宮津市府中地域には大谷寺や本坂道の板碑群など、特色ある中世の石造物があり、これまでの調査によって図面を蓄積してきたが、今回、あらためて製図をおこない、「宮津市府中地域の板碑調査」としてまとめた。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>今回の成果は、『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第2号に、「宮津市府中地域の板碑調査」として公表している。『宮津市史』において石造物の集成的な検討がおこなわれていたが、その現況を写真と図面によって示すことができ、今後の保全と活用の基礎資料とすることができた。また、これらの資料は歴史資料としても重要であり、成相寺の変遷、智海などの僧侶の活動を知る重要な証拠となろう。さらに、写真測量により3次元データとして記録ができており、CG映像の作成に用いることができるほか、復元模型の作製も可能になる。以上のように、今後の活用のための基礎的なデータを作成できたことが最大の成果である。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>京都府立大学考古学研究室「宮津市府中地域の板碑調査」および内山幹夫・菱田哲郎「成相寺境内におけるデジタルカメラとポールを州かつた写真測量」（『京都府立大学文学部歴史学科フィールド調査集報』第2号所収、府大図書館・総合資料館・府内の主要な図書館で閲覧可）</p>			
【お問い合わせ先】			
Tel: 075-703-5264		E-mail: hishida@kpu.ac.jp	
文学部（研究科）		考古学研究室 教授・菱田哲郎	

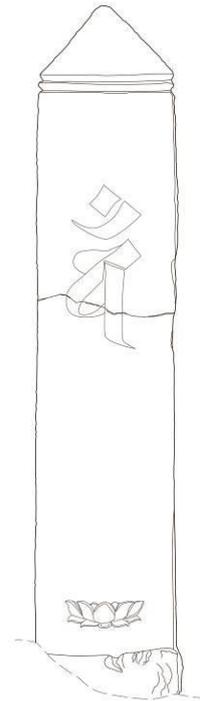
参考 (イメージ図、活動写真等)



石造物実測作業の風景



種子パン
阿闍梨長資
七月五日



17

板碑のオルソ画像と実測図



写真測量の作業風景